



2024年3月期 決算説明会

2024年5月14日

電気興業株式会社

- 1 2024年3月期 連結業績
- 2 2025年3月期 連結業績見通し
- 3 中期経営計画の見直し
「DKK-Plan2025」 ローリングプラン
- 4 セグメント トピックス
- 5 全社 トピックス
- 6 サステナビリティの取り組み
- APPENDIX

1. 2024年3月期 連結業績

1-1. 連結業績ハイライト



- 顧客の設備投資の抑制による減収に加え、エネルギーおよび部品等の価格高騰、人件費等の高騰等が影響し、営業利益についても損失を計上
- 固定資産の減損など特別損失の計上により、当期純損失は拡大

(百万円)	23/3 通期実績	24/3 通期実績	増減額	前期比
売上高	31,817	28,864	-2,953	-9.3%
営業利益	-1,510	-1,787	-277	-
経常利益	-1,219	-1,537	-318	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	-1,181	-1,977	-796	-
ROE (%)	-2.7	-5.0	-	-

1-2. 売上高・営業利益



- 電気通信関連事業においては、移動通信をはじめとした既存の主力事業を中心に減収減益
- 高周波関連事業においては需要の回復傾向を受けて増収。利益については原価高騰の影響から減益

(百万円)	23/3 通期実績	24/3 通期実績	増減額	前期比
売上高	31,817	28,864	-2,953	-9.3%
電気通信	22,578	19,136	-3,442	-15.2%
高周波	9,131	9,623	492	5.4%
営業利益	-1,510	-1,787	-277	-
営業利益率	-4.7%	-6.2%	-	-
電気通信	50	-56	-106	-
高周波	1,132	1,023	-109	-9.6%

※電気通信・高周波関連事業の営業利益はセグメント利益を記載しております。

1-3. 各セグメント業績－電気通信－



各セグメント売上高

23/3実績

24/3実績

移動通信

7,880 ➤ 5,688 (-27.8%)

移動通信事業者による設備投資は依然として全般的に抑制。アンテナに加えメンテナンスや設備工事も低水準で推移

固定無線
(防衛は除く)

5,210 ➤ 2,814 (-46.0%)

防災行政無線に関する需要は回復傾向にあるが、入札案件であることから価格競争が激化

防衛

1,081 ➤ 1,692 (+56.5%)

2024/3期からの防衛費予算の増額の影響を受け、市況環境は上昇傾向

放送

3,843 ➤ 3,111 (-19.0%)

放送事業者による保守・メンテナンス需要は改善傾向にあるが、デジタル放送設備の更新需要は先送り

ソリューション

188 ➤ 351 (+86.7%)

サイバーコア社とのシナジー創出、積極的な営業活動により事業領域は拡大

その他

4,374 ➤ 5,478 (+25.2%)

子会社による鋼構造物の表面処理需要の拡大、LED航空障害灯などの環境製品の需要確保

※単位：百万円

※（ ）内は前期比増減率

1-3. 各セグメント業績－高周波－



各セグメント売上高

23/3実績

24/3実績

誘導加熱装置

6,675 > 6,872 (+3.0%)

自動車関連業界における世界的な半導体不足や部品等の長納期化による影響が解消し、設備投資需要は回復傾向

熱処理加工

2,379 > 2,738 (+15.1%)

自動車メーカー各社の生産調整の解消から、需要の回復が鮮明

高周波新領域

76 > 12 (-84.2%)

過熱水蒸気装置を用いた食品や廃棄物の処理に関する需要の創出に向け、技術の高度化、周辺技術の検証を推進

※単位：百万円

※（ ）内は前期比増減率

2. 2025年3月期 連結業績見通し

2-1. 売上高・営業利益の見通し



- ・ 注力セグメントに加え、今期需要が期待できる防災行政無線の需要を取り込む
- ・ 収益力向上のための事業構造改革を断行し、黒字化を実現

(百万円)	24/3 通期実績	25/3 通期予想	増減額	前期比
売上高	28,864	33,000	4,136	14.3%
電気通信	19,136	22,100	2,964	15.5%
高周波	9,623	10,800	1,177	12.2%
営業利益	-1,787	500	2,287	-
営業利益率	-6.2%	1.5%	-	-
電気通信	-56	649	705	-
高周波	1,023	1,400	377	36.9%

※電気通信・高周波関連事業の営業利益はセグメント利益を記載しております。

2-2. 受注状況

- 2024/3期の電気通信部門においては、主に防衛関連等の受注を積み重ねたことにより、受注残高が増加
- 高周波部門においても、誘導加熱装置の需要が期末にかけて回復したことから、受注残高が増加

(百万円)	23/3 受注残高 ①	受注高 ②	24/3 売上高 ③	受注残高 ④ = ① + ② - ③	増減額 ④ - ①	前期比 ④ / ① - 1
電気通信	8,530	22,070	19,136	11,464	2,934	34.4%
高周波	3,513	9,997	9,623	3,887	374	10.6%
合計	12,044	32,067	28,864	15,352	3,308	27.5%

※24/3期の売上高の合計には、「その他」セグメントの売上高（104百万円）を含めております。

2-3. 各セグメントの見通しー電気通信ー

各セグメント売上高

24/3実績

25/3予想

移動通信

5,688 ➤ 6,600 (+16.0%)

通信品質改善に向け、一部設備投資需要に回復の兆しが見られるが、全般的には急速な回復は見込めない見通し

固定無線
(防衛は除く)

2,814 ➤ 4,200 (+49.3%)

2026/3期に期限を迎える「緊急防災・減災事業」への補助金の活用に向けて、防災行政無線の実施設計・施工が実施される見通し

防衛

1,692 ➤ 3,000 (+77.3%)

防衛費予算増額の影響が継続し、各種装備品、既存設備の維持・点検整備需要を積極的に獲得する

放送

3,111 ➤ 3,300 (+6.1%)

放送設備の更新需要は一定程度発生するが、市場としては縮小傾向。AMラジオ局のFM局への変更に伴う需要が発生

ソリューション

351 ➤ 800 (+127.9%)

画像AI技術と通信のシナジー実現により「人流分析ソリューション」、「行動分析ソリューション」を中心に受注の拡大を図る

その他

5,478 ➤ 4,200 (-23.3%)

鋼構造物の表面処理需要に加え、バックアップ電源向け燃料電池等環境製品の拡充を図る

※単位：百万円

※（ ）内は前期比増減率

2-3. 各セグメントの見通し－高周波－

各セグメント売上高

24/3実績

25/3予想

誘導加熱装置

6,872 >> 7,800 (+13.5%)

自動車関連業界の設備投資需要回復を確実に捉え、既存部品に加え、EV関連部品の需要拡大に取り組む

熱処理加工

2,738 >> 2,800 (+2.3%)

自動車生産台数の回復に伴う需要の確実な獲得、熱処理試作拠点新設に伴い需要の拡大を図る

高周波新領域

12 >> 200 (+1566.7%)

各種展示会への出展、PRを強化し、過熱水蒸気設備の新たな用途・顧客の開拓を着実に進める

※単位：百万円

※（ ）内は前期比増減率

2-4. 株主還元

株主還元方針

- 2027/3期までに、2023/3期から累計100億円超の株主還元を実施
- 配当については、配当性向40%に加え、DOE1.5%を目途とした下限値を設定
- 配当に加え、資本効率の向上および株主還元強化に向けた自己株式取得を実施
- 取得した自己株式は発行済み株式総数の約10%を残し消却

1株当たり配当金

(円)	23/3	24/3 (予定)	25/3 (予想)
年間合計	60	60	60
中間	30	30	30
期末	30	30	30

自己株式取得

- 2024年4月より、合計48万株または10億円を上限とする自己株式の取得を開始

3. 中期経営計画の見直し 「DKK-Plan2025」ローリングプラン

3-1. ローリングプランの概要



- 原材料高騰や顧客の設備投資抑制など、外部環境の変化に対応できる体制や基盤構築が不十分であることが顕在化
- 中期経営計画を見直し、利益を創出できる体制を確立するための事業構造改革を実行

ローリングプランの方針

期間：2025/3期～2027/3期（従来の中期経営計画数値目標を2年延期）

事業構造改革による収益体制の構築

1

収益改善のための構造改革

- 市場環境を見据えた注力セグメントの選定と強化
- 組織のスリム化とリソースの集中
- 業務効率化と働き方改革

2

中長期的な成長戦略

- コア技術の深耕と中長期を見据えた研究開発の選択と集中
- 事業戦略の遂行も見据えた人的資本戦略の実行

3

適切な資本構成

- アセットライト経営の推進
- 資本コストを意識した経営と事業活動の浸透
- 安定的な株主還元を実現するための基盤づくり

※本件に関する詳細は、2024年3月22日に開示した「中期経営計画 DKK-Plan2025 ローリングプラン」をご覧ください。

URL：<https://denkikogyo.co.jp/ir/management/dkk-plan/>

3-2. ローリングプランの数値目標



- 「DKK-Plan2025」の数値目標であるROEの達成年度を2年延期し、2027/3期の達成を目指す
- 利益および資本収益性を重視し、営業利益を新たな定量的目標として設定
- 外部環境の変化に迅速に対応するとともに、選択と集中を徹底し、コスト構造を見直し、早期の業績改善、数値目標の達成を実現

ローリングプランの最終年度の数値目標

	2025/3期 当初計画	2024/3期 実績	2025/3期 見通し		2027/3期 目標
売上高	430億円	288億円	330億円		400億円
営業利益	—	-17億円	5億円		18億円
当期純利益	20億円	-19億円	4億円		18億円
D/Eレシオ	0.2~0.3倍	0.15倍	0.16倍		0.2~0.3倍
ROE	5.0%	-5.0%	1.1%	+2年 →	5.0%

4. セグメント トピックス

4-1. セグメント概要



- ローリングプランにて、注力セグメントを「ソリューション」「防衛（固定無線）」「高周波関連（誘導加熱、熱処理、高周波新領域）」と設定し、集中的に資源を投入
- 他セグメントについては、収益改善のための取り組みを継続

セグメント

注力

■ ソリューション

■ 移動通信

注力

■ 防衛

■ 固定無線（防災無線他）

注力

■ 誘導加熱装置

■ 放送

注力

■ 熱処理加工

■ その他

注力

■ 高周波新領域

4-2. ソリューション①

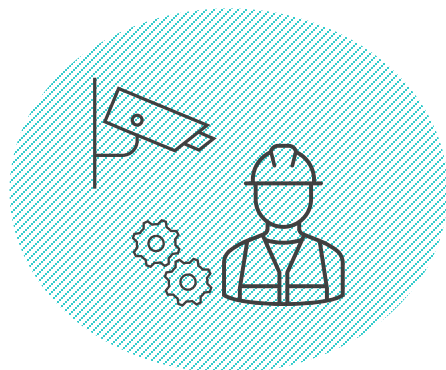


行動分析ソリューション

- 作業者の動作をAIカメラで解析し各工程に要した作業時間を自動計測
- 当社グループ会社での実証実験を経て、「行動分析ソリューション」として販売開始

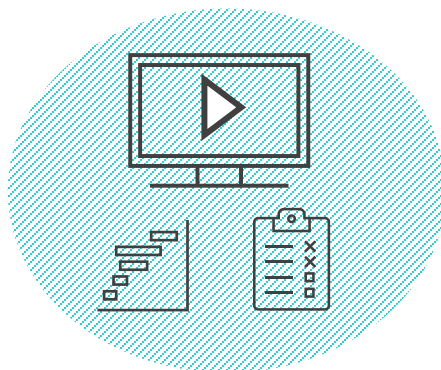
⇒生産性向上を目指すツールや人財育成ツールとしても活用可能

作業撮影



- ✓ 細かな動きも逃さず解析
- ✓ リアルタイムでの分析
- ✓ 作業者の意識改革

行動分析 標準作業作成



- ✓ 作業、要素ごとの行動分析
- ✓ 工程の平均時間と目標時間との誤差も算出

生産性向上



- ✓ 標準作業教育
- ✓ 作業習熟度の把握
- ✓ 動画マニュアル作成

当社の
優位性

画像AI技術を活かし、任意の方向からの画像による高精度な分析が可能

4-3. ソリューション②



AI×ロボット

- サイバーコア社が開発する画像解析AI技術と業務DXロボット u g o^(※)が連携
- 撮影した画像から数値や文字を高精度に解析し、u g oと連携した高度な各種点検業務が可能



ugo

(※)u g o株式会社

<会社概要>

所在地：東京都千代田区

東神田1-7-8

設立：2018年

代表：松井 健

URL：<https://ugo.plus>

事業内容

- ugoソリューションの提供・運用
- RaaSフレームワークの開発・提供・運用

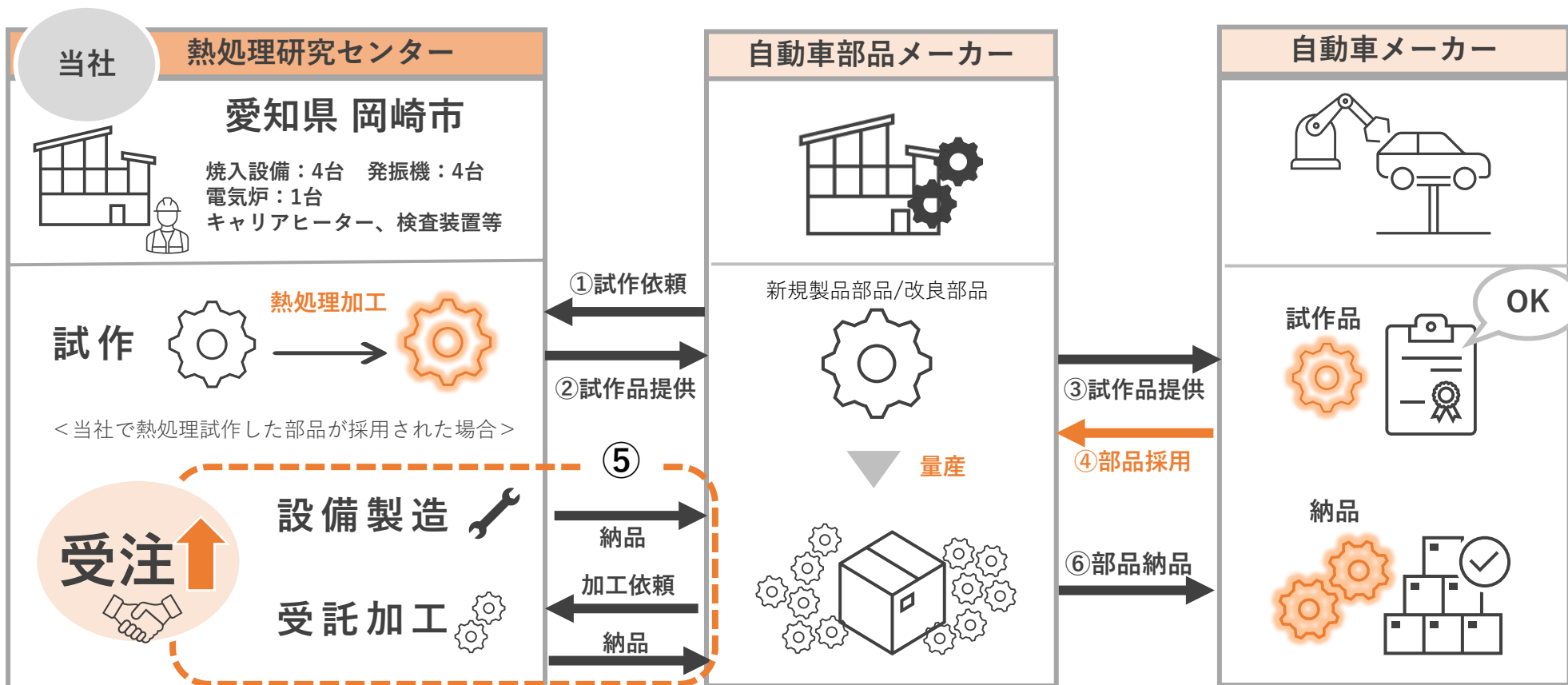
※本件に関する詳細は、2024年5月9日公開のサイバーコアプレスリリースをご覧ください。

URL：https://cybercore.co.jp/news_jp/2024/1564/

4-4. 誘導加熱・熱処理

東海熱処理研究センター設立（2024年6月下旬設立）

- 様々なニーズに対応可能な熱処理加工の試作試験機を設置することで、各種熱処理テストが可能
- 試作を通して当社の誘導加熱技術をアピール、各自動車部品メーカーの試作品採用に伴う製造設備や受託加工の受注増加につなげる



※本件に関する詳細は、2024年1月29日リリースの「東海熱処理研究センター設立に関するお知らせ」をご覧ください。

URL : <https://denkikogyo.co.jp/wp-content/uploads/2024/01/240129.pdf>

4-5. 高周波新領域①



D-Rapid™（超高温過熱水蒸気システム）のPR強化

展示会出展

新たな顧客や用途開拓のため展示会へ出展、過熱水蒸気による活用例を実際の加工品とともに展示

今後の出展予定

JAGRI東京

(2024/10/9～10/11)

第5回フードテック ジャパン東京

(2024/11/20～11/22)



廃棄コスト削減

廃棄前に重量を削減することで廃棄コストを削減



緑茶殻

10t

乾燥

2t

リサイクル

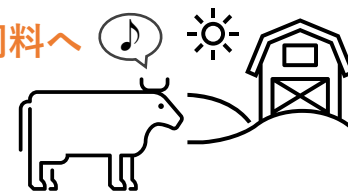
再利用が可能な水分率に調整することで廃棄物⇒有機物へ



野菜の残渣

乾燥

飼料へ



PR動画の製作

「D-Rapid™」製品紹介と製品開発者インタビューPV作成

- 過熱水蒸気装置「D-Rapid™」製品紹介
<https://www.youtube.com/watch?v=CXY8S5MDbug&t=2s>
- 過熱水蒸気装置「D-Rapid™」製品開発者インタビュー
<https://www.youtube.com/watch?v=UOa325YrzVw>

特設ページの開設

過熱水蒸気設備の特設ページを当社ウェブサイトにて、2024年6月中旬オープン予定

4-6. 高周波新領域②



■ D-Rapid™（超高温過熱水蒸気システム）有償試作サービス開始

- 展示会等への出展の反響が大きく、様々な企業からの試作依頼が増加
- 過熱水蒸気システムの処理能力の体感が可能

過熱水蒸気マッチング確認

3万円/式（3水準まで）

基準評価サポート

10万円/式（3水準まで）

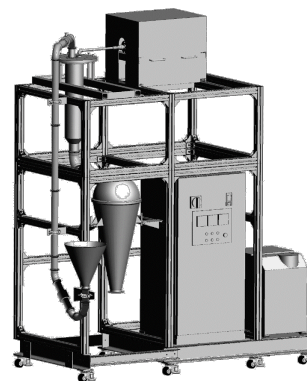


適合判断



乾燥温度

簡易実験用試験機
Rapid SHOWER



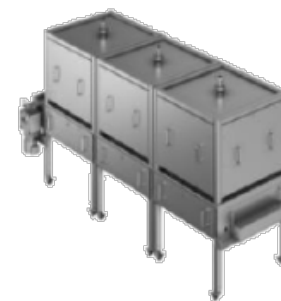
サイクロン式
Rapid SPIRAL

サンプル



形状

コンベア機
Rapid TRAIN



※本件に関する詳細は、2024年4月17日リリースの「D-Rapid™（超高温過熱水蒸気システム）有償試作サービス開始のご案内」をご覧ください。
URL：<https://denkikogyo.co.jp/wp-content/uploads/2024/04/240417.pdf>

5. 全社トピックス

5-1. 研究開発（ワイヤレス電力伝送の取り組み）

- ワイヤレス電力伝送（WPT：Wireless Power Transfer）は、ケーブルなどを使わずに電気を伝送する技術で、電気自動車やドローンなど様々な機器への新たな充電・給電方式として、研究開発が行われている



▶ コア技術である **電波制御技術** を活かし、WPTの実用化を目指す

5-1. 研究開発（ワイヤレス電力伝送の進捗①）

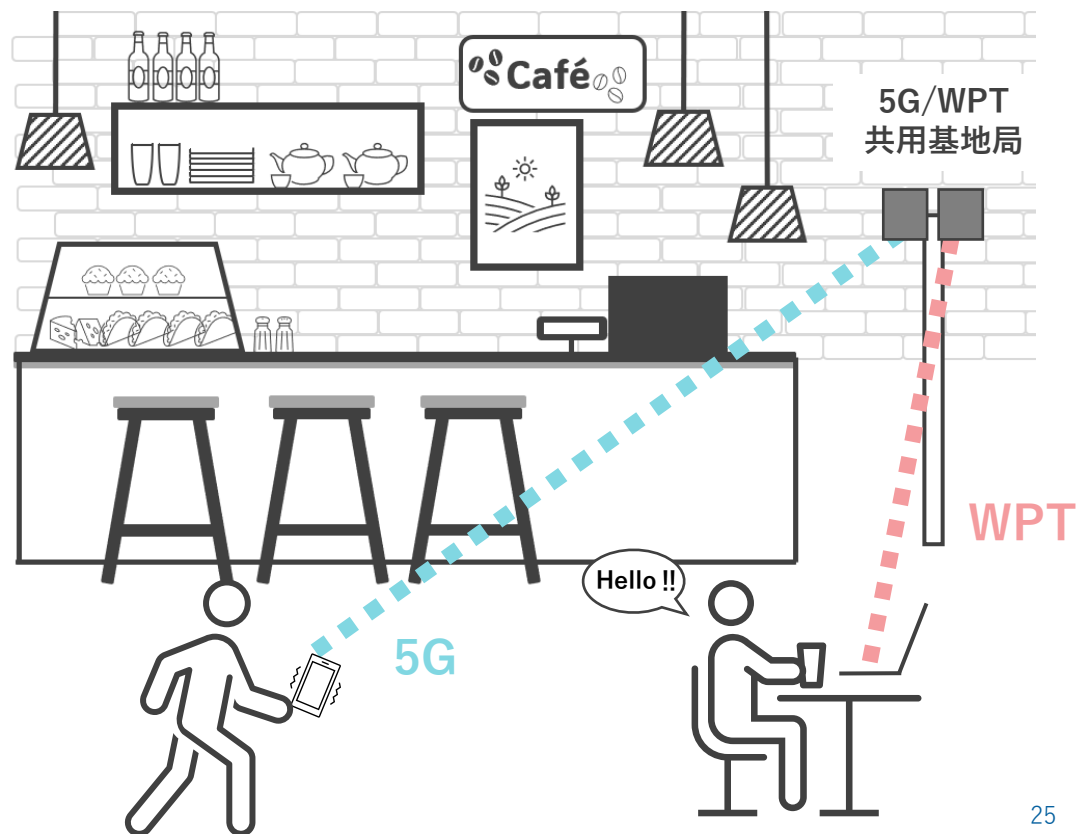


ワイヤレス電力伝送の実現に向けて

- 当社の無線通信技術が認められ「空間伝送型ワイヤレス電力伝送の干渉抑制・高度化に関する研究開発」の代表研究機関として共同研究を推進

5G準ミリ波との共用化技術

- 5G（28GHz帯）基地局とワイヤレス電力伝送（24GHz帯）基地局を1つの基地局で共用
- 基地局内の5Gシステムへの干渉を抑制し、5G通信中もWPTによる送電を継続できる基地局を実現



5G基地局との共用化により

**より便利で快適な
生活環境を実現**

5-1. 研究開発 (ワイヤレス電力伝送の進捗②)



ワイヤレス電力伝送の実用化に向けた独自の取り組み

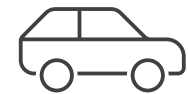
一般的に普及しているWPT
給電できる距離が短く
ほぼ接触した状態

モバイル機器
充電WPT



100kHz帯

電気自動車
WPT



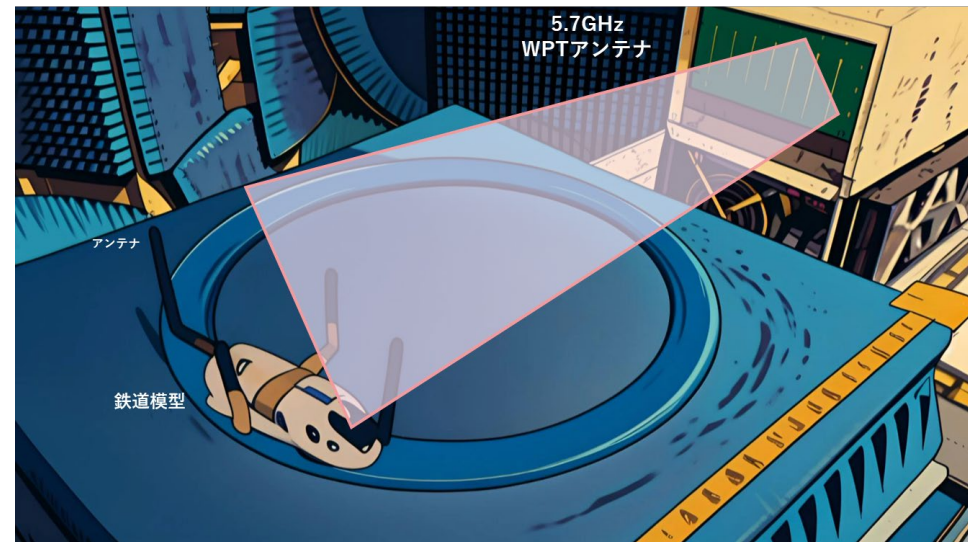
85kHz帯



5.7GHz帯を使用した電力伝送に成功

- 送信アンテナより電力供給を行い鉄道模型の走行を検証
- 送信アンテナはビームフォーミング(*)により、鉄道模型の位置に合わせて追従し、送電可能

(*) ビームフォーミング方式：無線通信において送受信の方向を電子的に制御する技術



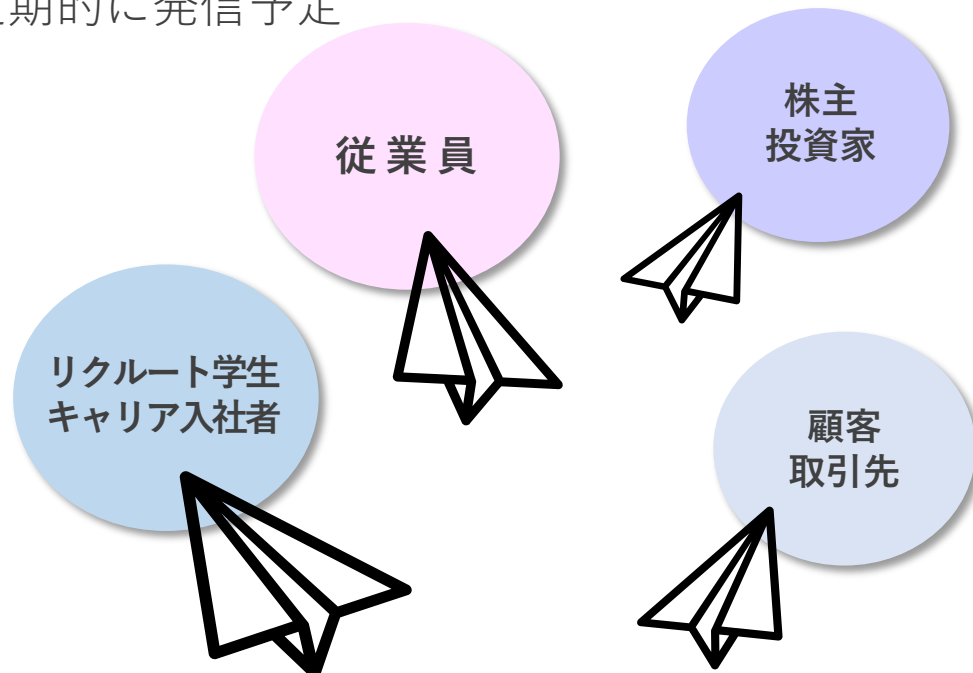
電波資源拡大・IoT社会の実現による社会貢献に加え、
早期の事業化による業績貢献を目指す

5-2. 広報・PR強化 noteによる情報発信

- 2024年5月9日よりnoteでの情報発信を開始
- これまで当社が提供してきた製品やサービス、今後の新しい取り組み、その根本となる技術などに焦点を当てたコンテンツを定期的に発信予定



電気興業 公式note
<https://note.com/denkikogyo>



当社のステークホルダーに向けて
コンテンツを発信

幅広いステークホルダーの方に
当社への理解を深めていただく

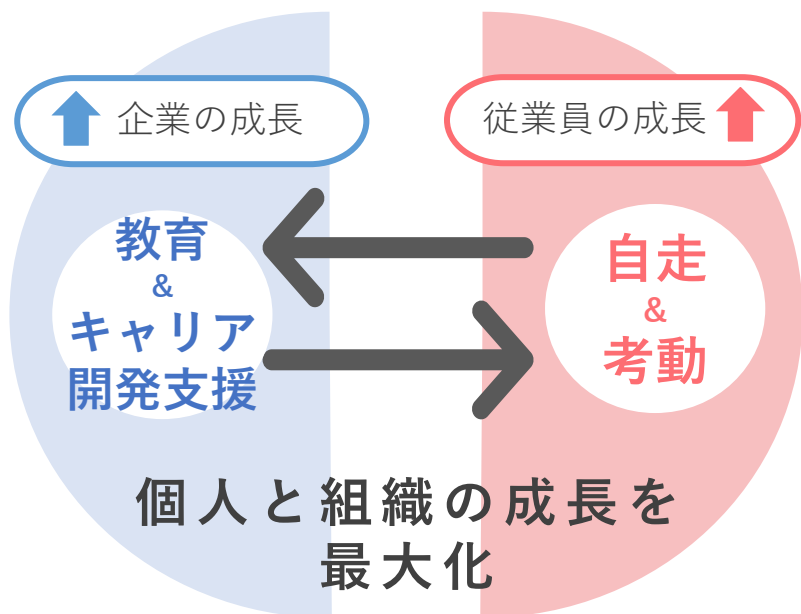
※本件に関する詳細は、2024年5月9日リリースの「「note」、「X」公式アカウント開設のお知らせ」をご覧ください。
URL : https://denkikogyo.co.jp/wp-content/uploads/2024/05/240509_2-1.pdf

5-3. 人的資本経営の考え方



人的資本戦略

- 2025/3期より、事業構造改革に沿った人的資本戦略をスタート
- 事業ポートフォリオに最も適した人財配置やキャリア開発にも注力
- 個々の挑戦を会社の成長につなげるための人事評価制度を2024年10月より運用開始



■ 主な取り組み施策

- 1 職務の見える化
- 2 専門性の向上
- 3 エンゲージメント向上/
DE&Iの推進

5-4. 人的資本経営の施策①



職務の見える化 — ジョブ型への移行/タレントマネジメントシステムの導入 —

- 2024年10月からの新人事制度運用開始に備えて、タレントマネジメントシステムを導入
- 社内の人財情報の見える化を図る

タレントマネジメントシステム導入の目的と目指す姿

■ 導入の目的



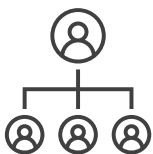
人財育成



人財の定着



ミスマッチ防止



人財配置



適正な評価



エンゲージメント
向上

経営戦略と人事戦略の連動

- 経営戦略および人的資本経営戦略にマッチした必要人財の定義、把握、ギャップを埋める施策の検討
- 人事制度の運用を通じた、経営戦略の実現と人財育成
- 職場や個人の意識改革

マネジメントの効率化

- 従業員のスキルや資格情報の効率的な管理
- 人事評価の高度化

新人事制度（ジョブ型人事制度）へのスムーズな移行&推進を目指す

5-4. 人的資本経営の施策②

専門性の向上

- 専門性向上のための取り組みとして「AI・DX人財の育成」と「専門性向上・リスキリング」を重要テーマとして推進
- 育成カリキュラムを通じ、AIやDX人財を拡大、既存事業の深耕、新規事業・サービスの創出につなげる

AI・DXの基礎習得

- サイバーコア社主催のAIに関する勉強会を実施
- AI基礎スキル獲得を目指す
- 業務プロセスの变革のため、DX人財育成

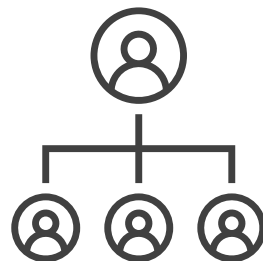
※サイバーコア社 2023年9月29日に当社のグループに参入



教育プランの確立と拡大

既存および新規事業に関する専門性向上

- 既存事業に関する専門性のブラッシュアップ
- 創造性人財育成のための教育
- 新規事業につながるアイデア創出・推進力・具体化力を高める、企画制作プロジェクトの推進



注力セグメントへ
人財の再配置



新規事業の早期実現

5-4. 人的資本経営の施策③

エンゲージメント向上/DE&Iの推進

■ 当社の考え方

多様な人財の 受入

性別・国籍・年齢の
有無にかかわらず
多様な人財を受け入れ

必要な社内環境

ダイバーシティの
理解・関心

多様な人財の 活躍

一人ひとりを組織の
一員として尊重し
活躍できる環境づくり

必要な社内環境

全ての人財に
公平な環境
(偏見・思い込みの排除)

エンゲージメント向上

ダイバーシティの理解や 公平な環境を整備するため 研修制度を充実

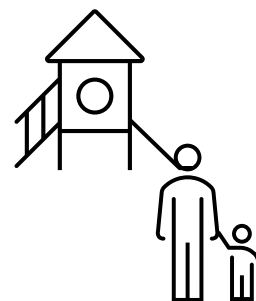
■ ダイバーシティマネジメント研修

多様な人財が活躍できる環境を提供し、個人の成長と当社の成長につなげることを目的として新たに研修制度を導入



■ 男性の育児休業取得促進研修

育児休業取得社員の事情を理解し、部下の家庭と仕事の両立を支援することを目的とした管理職向けの研修を新たにスタート



2023年度 取得率

80%

取得期間（実績）

1ヶ月～1年間

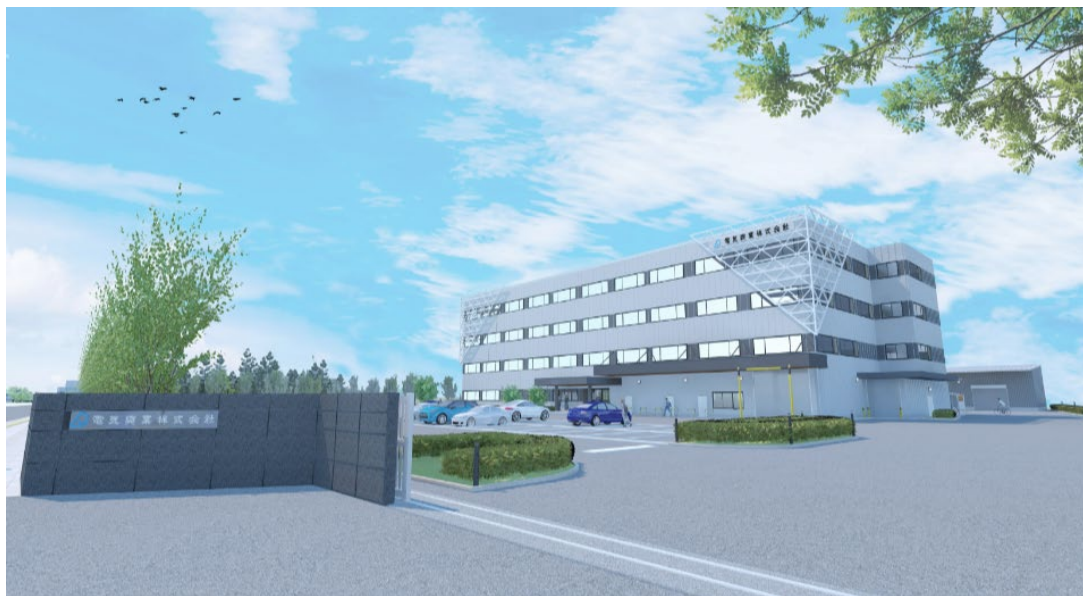


5-5. 川越事業所 リニューアル

- 従業員のエンゲージメント向上、働きやすい環境を整える取り組みの一環として、埼玉県ふじみ野市に位置する当社川越事業所をリニューアル。2026年完成予定
- 事業所屋上には自家消費型の太陽光パネルを設置、カーボンニュートラルへの貢献

川越事業所

- 電気通信工事や各種建設工事を担う東日本技術部門の基幹拠点
- 従業員数 約100名



新事業所完成イメージ



リフレッシュルームイメージ

- コミュニケーション活性化のため執務スペース内にリフレッシュルームを設置

※本件に関する詳細は、2024年5月10日リリースの「川越事業所リニューアルのお知らせ」をご覧ください。
URL：<https://denkikogyo.co.jp/wp-content/uploads/2024/05/20240510.pdf>

6. サステナビリティの取り組み

6-1. サステナビリティに関する取り組み



マテリアリティ

2024/3期の主な実績

職場風土・働き方改革

- 休暇制度の拡充
- 人権研修およびハラスメント研修受講率：100%
- 管理職を対象としたダイバーシティマネジメント研修の実施

コーポレートガバナンスの強化

- 内部通報窓口のアウトソーシング化
- 役員および部門長向けコンプライアンス教育受講率：100%
- 当社全部門にてISO27001取得完了

社会インフラ整備への貢献

- トンガ王国における早期警報システムの構築、防災体制の強化プロジェクトに参画
- 自動車安全装置システムに関する有償試作および設備受注増加

環境経営の推進

- 2年以内のSBT認定取得を宣言する「コミットメントレター」の提出
- グリーン調達に関する社内教育実施

新規事業の創出

- ソリューション事業の早期事業化に向けたサイバーコア社のグループ化
- 東京都中小企業振興公社の企業マッチングの活用による協業開始

6-2. サステナビリティKPIの見直し



- ・ 事業環境および事業構造改革に伴い、サステナビリティのKPIを見直し・変更
- ・ 社会課題の解決を通じた持続的な成長の実現に向け、引き続き取り組みを推進

項目	見直し理由	変更前	変更後
女性活躍推進 (女性管理職比率)	・ 組織構造改革に伴う、組織のスリム化に伴う見直し	15% (2024年度)	10% (2026年度)
	・ 女性管理職比率に加え、「えるぼし」の認定をKPIに追加	-	えるぼし認定 (2026年度)
通信設備案件、防災機能強化案件、安全装置システムに関する誘導加熱設備等の売上高	・ ローリングプラン策定に伴い、目標を修正	2020年度比率 15%以上 (2025年度)	2023年度比率 35%以上 (2026年度)

※KPIの詳細は当社ウェブサイトをご覧ください。

URL : <https://denkikogyo.co.jp/sustainability/materiality/>

APPENDIX

24/3期 連結業績



(百万円)	23/3	24/3	24/3	前期比		予想比	
	通期実績	通期予想 (※)	通期実績	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	31,817	30,500	28,864	-2,953	-9.3%	-1,636	-5.4%
売上原価	27,732	-	24,693	-3,039	-11.0%	-	-
売上総利益	4,084	-	4,170	86	2.1%	-	-
販売費及び一般管理費	5,595	-	5,958	363	6.5%	-	-
営業利益	-1,510	-1,500	-1,787	-277	-	-287	-
営業利益率	-4.7%	-4.9%	-6.2%	-	-	-	-
経常利益	-1,219	-1,300	-1,537	-318	-	-237	-
経常利益率	-3.8%	-4.3%	-5.3%	-	-	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	-1,181	-1,100	-1,977	-796	-	-877	-
ROE	-2.7%	-	-5.0%	-	-	-	-

※24/3予想は、2023年11月10日公表の最新予想

25/3期 連結業績見通し

(百万円)	24/3 通期実績	25/3 通期予想	増減額	前期比
売上高	28,864	33,000	4,136	14.3%
電気通信	19,136	22,100	2,964	15.5%
高周波	9,623	10,800	1,177	12.2%
営業利益	-1,787	500	2,287	-
営業利益率	-6.2%	1.5%	-	-
電気通信	-56	649	705	-
営業利益率	-0.3%	2.9%	-	-
高周波	1,023	1,400	377	36.9%
営業利益率	10.6%	13.0%	-	-
経常利益	-1,537	600	2,137	-
経常利益率	-5.3%	1.8%	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	-1,977	400	2,377	-
ROE	-5.0%	1.1%	-	-

※その他セグメントの売上高は省略

※電気通信・高周波関連事業の営業利益はセグメント利益を記載



本資料の数値のうち、過去の事実以外の計画、方針、その他の記載にかかわるものは、将来の業績にかかる予想値であり、それらはいずれも、現時点において当社が把握している情報に基づく経営上の想定や見解を基礎に算出されたものです。

従いまして、かかる予想値は、リスクや不確定要因を含むものであって、現実の業績は諸々の要因により、予想値と異なってくる可能性があります。

かかる潜在的リスクや不確定要因としましては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行などの変更等が含まれます。